

私は祖父が大好きだ。祖父は医者として人生を全うし、三年前に癌で亡くなった。よく仕事の合間を縫って遊びに連れて行ってくれたことを覚えている。そんな祖父は仕事に対して人一倍真面目だったという。

祖父は入院施設のある病院を開業していた。そのため夜中に寝ている時でも病院から呼び出しがあるとすぐに入院患者のもとへ駆けつけたそうだ。そんな仕事熱心な祖父は高額納税者として新聞に載ったことがあり、収入の半分近くを所得税として納めていた。それを知って尊敬すると同時にそんなに税金をとられるのだ、という感情にもなった。その時の私は税金を「とられる」という認識だった。

祖父が他界して祖母とよく祖父の話をするようになった。ある日祖母が、「おじいちゃんをよく『世のため人のために自分は働いている。』と言っていたのよ。世のため、とは国のために税金を納めること。人のため、とは患者さんを助けること。それがおじいちゃんの口癖だったのよ。」

と言った。今まで私は税金を「とられる」としか思っていなかった。しかし祖父は税金を国のために「納める」と思っていたのだ。少しの言葉の違いかもしれない。けれど私と祖父の税への考え方は大きな違いがあると感じた。正直私は税金を不満に思ったことがあるが、祖父が不満を口に出したことは一度もなかったそうだ。そして祖母が続けて言った。

「おじいちゃんが初めて年金を貰った時、ありがたいな、と何度も言って嬉しそうにしていたのよ。」

それを聞いてハッとした。今まで私は税金を納めることだけに目がいて、税金による恩恵が見えなくなっていた。そうやって祖父が年金を貰えたのも国のみんなが責任を持って税金を納めてくれたおかげだ。それにその年金は祖父が今まで納めてきた納金が循環して戻ってきたのかもしれない。税金を納めることは国の経済を循環させて自分や未来を守ることに繋がる、今まで私は税金によって賄われている物といえば教科書くらいしか思いつかなかった。だが学校の机や黒板、道路や水道の整備など、あって当たり前のように使っていたものにも税金が使われている。私には税による恩恵の知識が足りていないと思ったし、いとも簡単にそれらを受け取っていると気づいた。税金に対する不満を耳にすることは少なくない。人はマイナスばかりに目が行きがちで隠れたプラスに気づかないことが多い。だからこそ、その人達も少し周りを見渡すだけで税による恩恵がそこら中に溢れていることに気がつき、当たり前にある環境の有難みを感じ、感謝の姿勢を持てるはずだ。

今、私は税によって支えられることの方が多い。大人になったら今度は私が支える番だ。税の恩恵を受けていることを忘れず、祖父のように世のため人のために責任と誇りを持って、税金を納める義務を果たしていきたい。